

特別展示

# 戦後の看護教育の変遷

国立看護大学校所蔵の貴重書をたどる



場所：国立看護大学校 図書館展示室

期間：2025年8月8日～2026年8月10日



## ごあいさつ

国立看護大学校図書館は2026年に開館25周年を迎えます。それに先立ち、戦後80年の節目となる2025年8月より「戦後の看護教育の変遷—国立看護大学校所蔵の貴重書をたどる」と題した企画展示を開催する運びとなりました。2001年の開館以来、当館は看護に関する専門資料の収集・保存を行い、教育・研究の基盤を支えて参りました。本展示は、所蔵する多様な貴重書の中から、日本の看護教育が制度的・思想的にいかに関深化してきたかを、数回の会期に分けてたどる試みです。

1945年の終戦直後、GHQ主導による看護教育改革が始まり、その後の教育の礎を築いたのが、古屋かのえ先生をはじめとする先達の知恵と努力でした。第1期の展示では、その起点となる戦後改革に焦点を当て、貴重な一次資料や記録を通じて、当時の教育者と学生たちが看護という営みの尊厳を取り戻そうとした姿を浮き彫りにいたします。

展示の中では、日本において看護学が創生され、黎明期を迎えるまでの学問的軌跡もたどります。看護教育が技術の伝達にとどまらず、人間を深く理解し支える専門職としての役割を確立していく過程が、制度・思想・実践の各側面から立体的に形作られていきます。

特に注目いただきたいのは、当時の教員が実際に使用していた教科書に残された書き込みです。大切な箇所への下線や余白への書き込みからは、彼女たちがどのようにその本から知を得て咀嚼し、どの知をどのように学生に伝えようとしていたのか、その熱意と工夫が手に取るように伝わってきます。この度、解剖学者として当時の教育課程で用いられていた医科学の教科書(Introduction to medical science, Gulli Lindh Muller, Dorothy E. Dawes, 2nd ed, 1948)を読み解きましたが、現在の教科書では見られなくなった精緻なスケッチや組織学的視座の記載が息づいており、教育内容の厚みと真摯さを感じることができました。

本展示の構想にあたっては、資料の丹念な読み解きと関係者との対話を重ねてまいりました。写真や文献に触れるたび、まるで当時に身を置いているかのような情景が広がり、次第に一つの有機的な語りとなって歴史を織りなし、未来への確かな布石として私たちにその軌跡を語りかけてきました。

看護師養成とはどうあるべきか。この問いは今なお続いています。2025年3月には、新しい「看護学教育モデル・コア・カリキュラム（令和6年度改訂版）」が公表されましたが、本展示を通じて、戦後80年間にわたる看護教育の原点に立ち返り、未来の看護をともに思索するきっかけとなれば幸いです。

(国立看護大学校教授 図書館長 本間典子)